

Report File

嘉手納町民が集う新しい共用型のオープンスペース AIRRECTでセキュアなネットワーク環境を構築

かでな未来館
共用型オープンスペース
歴史民俗資料室
コミュニティホール

かでな未来館は、嘉手納旧飛行場用地問題の解決を図ることを目的として建設されました。

かでな未来館という名称は、嘉手納町の町民など人々が集い、地域に開かれて過去から未来へとつなぐ拠点になることを願い名付けられています。その“未来”を担う本施設の共用型オープンスペースに、パナソニックEWネットワークス株式会社の無線LANシステム「AIRRECT(エアレクト)」が導入されています。

PROFILE

■かでな未来館

所在地: 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納603番地8

開設日: 2022年9月1日

施設概要: 特定地域特別振興事業として建設された公共施設。歴史民俗資料室や、コミュニティホール、共用型オープンスペースを備えており、地域のコミュニティ活動や、生涯学習の場として利用できる。

■導入前の課題

- ・ガイドラインに準拠した認証方式が必要
- ・管理しやすいシステムが望ましい

嘉手納町が運営する新しい公共施設オープンにあたり、総務省が示している手引きに準拠した3つの認証方式に則った無線LANシステムが必要だった。またネットワーク運用も含め、管理しやすい製品・システムを求めている。

■導入の決め手

- ・3つの認証方式に対応したAIRRECT
- ・遠隔管理が可能なAIRRECT Cloud

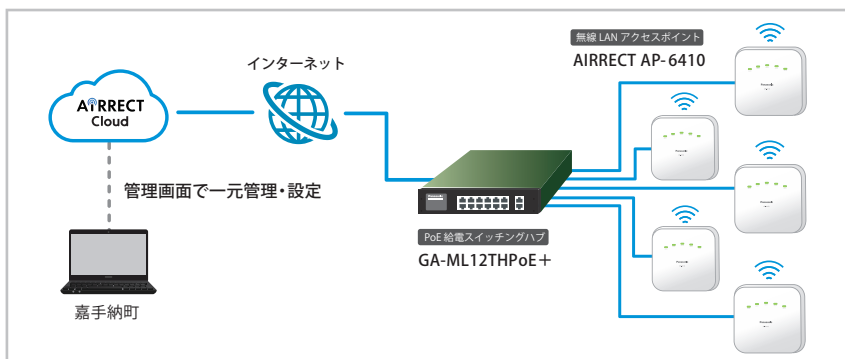
「メール認証」「SNSアカウント認証」「SMS認証」の3つをカバーしていることから「AIRRECT(エアレクト)」導入を決定。クラウド管理型の「AIRRECT Cloud(エアレクト クラウド)」で遠隔から管理が行える点もメリットだった。

■導入後の効果

- ・メール認証で利用者をセキュアに認証
- ・遠隔から柔軟な設定変更が可能に

メール認証により利用者の認証をセキュアに行えるようになった。またAIRRECT Cloudを活用することで夜間は接続できないようにするなど、よりセキュリティを強化した設定で運用できるようになった。遠隔からの設定変更が可能のため、今後は保守事業者などと連携した施設運営も検討可能に。

システム構成図

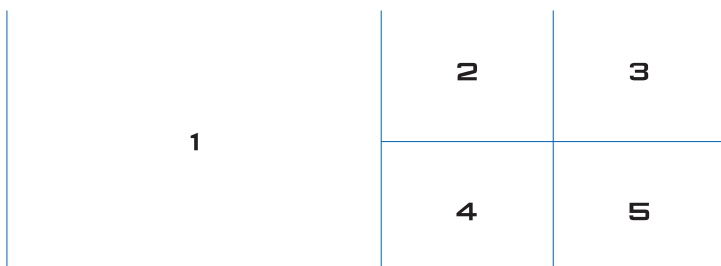
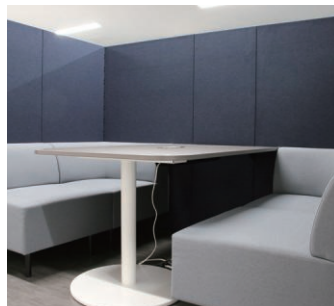
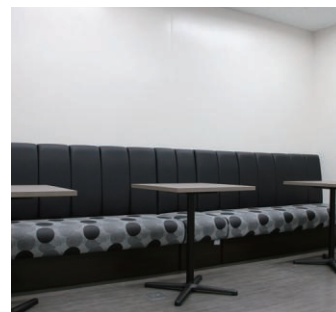
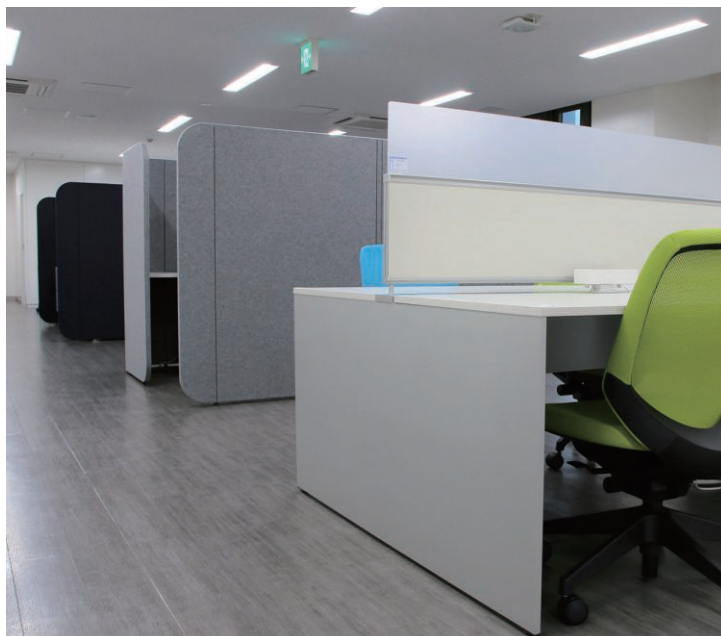


INTERVIEWEE

かでな未来館様

沖縄県嘉手納町教育委員会
社会教育課 社会教育係

新城裕喜 氏



1 かでな未来館の共用型オープンスペースには、電源タップなどが用意されたスペース(写真手前)や、区切られた半個室スペース(写真奥)など、さまざまな座席が用意されている。椅子やデスクのデザインはバリエーションが豊富で、様々な年代の利用者が使いやすい空間に仕上がっている。**2** 共用型オープンスペースや会議室の天井には、無線LANアクセスポイントAP-6410が設置されている。**3** 共用型オープンスペースには壁を背にする壁面デスクも用意している。足下にはコンセントもある。**4** 4～5名ほどで利用できる仕切りつきテーブル席は簡単なミーティングに最適。**5** 10～15名程度の会議で利用できる会議室も2部屋用意されており、この天井にもAP-6410が設置されている。

かでな未来館は1階がイベントなどで活用できるコミュニティホール、2階が町内の歴史を学べる歴史民俗資料室、3階が共用型オープンスペースからなる公共施設です。

「もともと嘉手納町には町民が運営するさまざまな団体がありましたが、そうした町民の方々の会議室のようなスペースがほしい、といった要望をカバーする施設として、15名程度で利用できる会議室を用意しています」と、かでな未来館の開設に携わった沖縄県嘉手納町教育委員会 社会教育課 社会教育係 新城裕喜氏は語ります。

共用型オープンスペースには会議室だけでなく、個人や複数名で仕事や作業がしやすいデスクや椅子が並んでいます。もちろんデスクには電源タップも用意されているため、バッテリー切れの心配なくPC作業が行える環境です。

この共用型オープンスペースのネットワーク環境を支えているのが、無線LANシステム「AIRRECT(エアレクト)」です。かでな未来館ではAIRRECTシリーズの無線LANアクセスポイント「AIRRECT AP-6410」(以下、AP-6410)を5台導入し、前述した会議室や共用スペースの天井に設置することで、本施設の利用者の快適なネットワーク環境を提供しています。

かでな未来館のネットワーク環境にAIRRECTを選択した理由について、新城氏は次のように語ります。「総務省が公開している『Wi-Fi提供者向けセキュリティ対策の手引き』(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/wi-fi/)において、Wi-Fiを安全に提供するためには、利用者情報の適切な確認が必要であると挙げられています。その中で認証手段として『メール認証』『SNSアカウント認証』『SMS認証』の3つが推奨されており、それらをカバーしているAIRRECTを本施設の無線LAN環境に採用しました。現在

かでな未来館ではメール認証で、利用者確認を行っています」

AIRRECTの良さは、認証方式の多様さに留まりません。管理コンソールから行える柔軟な設定は、まさにコワーキングスペースのような不特定多数のユーザが利用するネットワークにぴったりです。新城氏は「認証後にずっと接続できてしまうと、夜間に屋外からアクセスされてしまうリスクも考えられました。今回のかでな未来館のネットワーク構築を担当いただいた企業の担当者さまとの相談し、セキュアな設定を行ってもらいました」と振り返ります。AIRRECTのコントローラ「AIRRECT Cloud(エアレクトクラウド)」はクラウド管理型のため、遠隔からでも柔軟な設定が行えます。将来的には保守事業者とも共有できるため、より円滑な運用保守が実現可能になるといいます。

また、ユーザ認証を行うキャプティブポータル画面の設定がAIRRECT Cloud上で行える点も評価されています。利用規約の変更を行う必要がある場合でも、嘉手納町の職員がログインして直接編集するといった柔軟な対応が行えるためです。「キャプティブポータル画面の背景には、かでな未来館の外観写真を掲載しています。こうしたカスタマイズが容易に行える点も魅力的ですね」と新城氏は語ります。

かでな未来館では、無線LANアクセスポイントだけでなく、スイッチングハブもパナソニックEWネットワークス製のPoE給電スイッチングハブ「GA-ML12THPoE+」を採用しています。PCレスでのPoEオートリブート機能を備えるなど、通信障害からの復旧を早急に行えるため、安定した通信環境を利用者に提供できます。

信頼性の高いパナソニックEWネットワークス製機器で整備された、かでな未来館。嘉手納町の過去と未来をつなぐための施設として、これからも町内外からさまざまな利用者が訪れることでしょう。